

平成 21 年 5 月 21 日

北アルプス広域連合議会
議長 殿

白馬新ごみ処理施設を考える連絡協議会
会長 宮田 温巳
住所 〒399-9301
北安曇郡白馬村北城 11020

陳情書

(陳情の主旨)

1. 広域連合議会「ごみ処理広域化特別委員会」は、ごみ処理広域化推進で動いたこの 2 年間の「検証と反省」を行ない、それを 3 市村の住民に何らかの方法で知らせてください。
2. ごみ処理広域化計画の再出発に当たり、住民代表と専門家が参加する「ゴミ問題再出発検討委員会」(仮称)を設け、ごみ処理広域化基本計画にまで立ち返った再検討を委ねることを連合長に提案してください。
3. まず、ごみの減量化を推し進める政策を最優先してください。

(陳情の理由)

北アルプス広域連合による大町市・白馬村・小谷村 3 市村が共同使用する新ごみ処理施設建設計画では、候補地：飯森が白馬村民によって否定されました。

このことを、「飯森は候補地にふさわしくないと白馬村民が意志表示しただけ」と限定的な捉え方をするのは、私たちは、問題を矮小化するもので不適切だと考えます。

私どもがこの 2 年間主張し続けてきた、「情報公開不足(住民の知る権利〔自己決定権〕の否定)」「住民代表と専門家が参加しなかった用地選定」「広域化計画に固執する必要が無くなった国の方針」「広域化・大型化が経済的であることへの疑問」「新施設建設よりも、先ずごみの減量化を」などもまた飯森否定の理由になっていることは容易に推察できます。

行政の提案を鵜呑みにした広域議会特別委員会の責任は重大です。住民の目線で「検証と反省」を行い、それを住民に知らせることは議会の責任と考えます。

また、「検証と反省」の先にあるものとして、「住民参加」「基本計画の見直し」は最も重要な視点と考えます。

最後に、ごみ減量は時代の要請です。住民の関心の高まりのなか、半減どころか 1/3 にも減らせるとの構想もあり、十分に実現可能となっています。今ある施設を可能な限り使い、その間にごみの減量化を徹底するべきではないでしょうか。

なお、このことと関連して、連合長宛に「要望書」を提出しましたので、添付させていただきます。

以上